

学芸会

10月27日（金曜日） 29日（日曜日）

1年生



1年生の子供たちは「オズのまほうつかい」を元気いっぱい演じました。初めての学芸会でしたが、大きな声で役になりきって演じることができました。最初は、台詞の言い方や動きのつけ方に戸惑っているところもありましたが、練習を重ねるうちに堂々とした演技ができるようになりました。歌に台詞にと、たくさんやることができましたが、とても良く頑張って舞台を成功させることができました。

2年生



「おかしなすきな海ぞくのおかしなおかしなおかしなたび」を演じました。一人一人が役になりきって表現するために、一回一回の練習のめあてを決め取り組みました。大きくはっきりした言い方、場にあった言い方やジェスチャーができるよう工夫もしました。ダンスの振りを考え、楽器で音を作り、衣装や小道具作りにも挑戦しました。小学生になって初めての学芸会、みんなの力と心を合わせてがんばりました。

3年生



3年生は、「ほんとうの宝ものは」を演じました。初めての学芸会でしたが、練習の時から体育館の後ろまで聞こえるように大きな声を出したり、それぞれの役になりきってふりを考えたり、一人一人が目標をもって取り組むことができました。本番では練習の成果を生かして、3年生全員で力を合わせて立派に演じることができました。

4年生



4年生は「西遊記」を演じました。見ている人に、孫悟空たちの〈仲間との絆〉や〈協力することの大切さ〉が伝わるように、83人が一丸となって練習に取り組みました。台本にあるセリフをただ言うだけでなく、気持ちが伝わる表現を目指し、上学年らしく動きや台本以外のセリフを付け加えるなどたくさんの工夫ができました。

5年生



「エルリック・コスモスの239時間」は、子供たちは博士が作った人間型ロボット「エルコス」によって、一人一人の個性や仲間の素晴らしさに気づいていくストーリーです。5年生は本番当日まで毎日の練習に全力を尽くしました。先生に指摘されたことだけでなく、友達同士で見合い、改善できたことも大きな成長です。舞台裏の照明、会場の後片付けまで高学年として協力する姿も頼もしく感じました！

6年生



「魔法をすてたマジョリン」は、子供の魔法使いのマジョリンが、村人とのふれあいを通して心の温かみにふれ、人間を助けていくという話です。自分たちで演技を工夫し、最後の最後まで一生懸命に考えて本番に臨むことができました。魔女と村人との争いの場面など、舞台に収まらずに、会場まで使って演技をする姿は迫力満点でした。